第６回北区男女共同参画審議会議事録

日　　時：平成２０年５月２０日（火）午後６時３０分～午後８時１５分
場　　所：北とぴあ　男女共同参画センター「スペースゆう」多目的室Ａ・Ｂ

１　開　　会

２　審　　議
　（１）男女共同参画に関する意識・意向調査について
　（２）その他

３　閉　　会

出　席　者	井上会長	鶴田副会長	山田委員	荒木委員	神戸委員
	杉山委員	眞庭委員	池田委員	佐藤委員	根木委員
	黒田委員	福田委員	長谷川委員	伊予部委員	依田委員
	岡田男女共同参画推進課長				
欠　席　者	武石委員	磯委員	照井委員	山口委員	谷川委員

〈発言要旨〉

＜　審　議　＞

（**1**）男女共同参画に関する意識・意向調査について・・・資料**3-1**（一般区民向け）
資料**3-2**（企業経営者向け）
資料**3-3**（自治会向け）
資料**3-4**（中学生向け）

○岡田課長

資料説明

○井上会長

資料３-１について、ご意見・ご質問などお聞かせいただきたい。

○鶴田副会長

前回の審議会で「意識・意向調査」なのか、「実態調査」なのか議論があったと思う。調査内容に「実態」が入っているところもあるし、「実態」の項目は全部なくなっているところもあるが、これはどういうふうな捉え方でやっているのか、質問したい。

○岡田課長

設問の内容には、「意識・実態」を調べるものと、また、今後どうした方向を区に求めるのかという「意向」の部分とが入っている。調査のタイトルにこだわりはないので、この場である程度方向性をだしていただければ、「意識・実態調査」という形でも差し支えないと思う。ただ、今回の調査は、アゼリアプラン改定の基礎資料としてそこから何かを導きだすことになるので、区民の「意向」のようなものも入っているという意味合いから「意識・意向調査」というように当初、名づけたものではないか。

○鶴田副会長

調査内容に「実態」の部分をもっと入れたほうが良いのではないか、と思い確認のため質問をした。

○井上会長

ここで、一応確認をしたい。言葉の使い方として「意識・実態」というと今現在の状況、「意向」というとこれからどうしたいかという意味合いが入ってくる。調査の名称については、このような理解で「意識・意向調査」という形のままでよろしいか。

○鶴田副会長

名称については「意識・実態・意向」と３つも並ぶとかえっておかしいので、これでよいと思う。

○眞庭委員

ベースシートの案を考えたときに、町会・自治会の部分を担当した。この部分は回答が来るのは「実態」と思っている。

○井上会長

実際には、調査内容に「実態」も含まれている感じがする。

○鶴田副会長

最初から「意識・意向調査」となっているが、やはり「実態」があって初めて見えてくるわけで、「実態」はタイトルにいれなくても、「意識・意向調査」の中に入っているので、このままで検討していって良いのではないかと思う。

○井上会長

一応、ご意見をいただいたので、そのような了解としてよろしいか。

○鶴田副会長

中学生向け調査では、ほとんど「実態」の項目がぬけてしまっていたので、どうするのかと思い発言した。この件は、議論の中で検討していきたい。

○井上会長

それでは、議論の中でもう少し詰めることにして、最終的に再度、確認することにする。「意識・意向調査」の調査内容について議論していただきたい。

○黒田委員

資料３-１は、一般区民向けの調査で、わかりやすい内容で問うことが求められる。調査項目の欄に「フェイス」という言葉があるが、ここをもっとわかりやすい表現に何か変えられないのか。

○井上会長

調査項目の枠組みだけのことだと思う。

○山田委員

このままの形で調査票にするわけではない。実際の調査票には「フェイス」という言葉はでてこない。

○岡田課長

事務局の整理のために分類しているだけである。

○黒田委員

了解した。このまま調査票になるのかと思っていた。

○岡田課長

今、お手元にある資料はあくまで項目の整理ということで出させていただいている。実際に調査票を区民に配布する時は、もっとわかりやすくレイアウトも工夫したものをださせていただく予定である。

○井上会長

了解した。今の質問のように、どんなことでも疑問に思われたことは出していただきたい。質問項目の言葉の表現のしかたというのは、とても大事だと思う。

○佐藤委員

「あなたは、現在住んでいる地元のどのような地域活動に参加していますか。」という設問の回答の選択肢に「ボランティア活動」、「ＮＰＯ活動」というのが入っているが、最近よく耳にする、任意団体に入って無償で働く「市民活動」という言葉も入れたほうが良いのではないか。自分は、ボランティアというほどのことはしていないが任意団体で無償で動いているという人もたくさんいるので記入する欄が欲しいと思う。

○井上会長

調査全体を通して、回答の選択肢の数が７つあったり、１１あったりとばらばらになっているが、数を統一しなくてこのままで良いのか。

○岡田課長

設問によって、回答の選択肢の設定数が異なるということはどうしても出てくるかと思う。

○井上会長

選択肢の中に「その他」というものがあるが、ここの活かし方はどのように考えているか。

○岡田課長

「意識・意向調査」全体でも回答の選択肢について、統一感のあるものにしていきたい。

○山田委員

データとしてＮＰＯの参加率が欲しいわけではないので、ＮＰＯなどの市民活動、社会活動としてはいかがか。

○井上会長

「ＮＰＯなどの市民活動」と「その他」という選択肢を加えるということでいかがか。

○佐藤委員

了解した。

○長谷川委員

１つ目として『「男は仕事、女は家庭」という考え方についてあなたはどう思いますか。』という設問について、回答の選択肢が「賛成」、「反対」というのはいかがなものか。「どう思いますか」という設問については「そう思う」、「どちらかといえばそう思わない」という回答の選択肢のほうが妥当ではないか。

２つ目として「女性が仕事をすることについて、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。」という設問で、事務職の方とか、女性でも自営業の方とかがいらっしゃると思うが、仕事全体の問いではなく、事業所に勤務する方をイメージしているように感じられる。もう少し何か工夫できないのかという感想だ。

○井上会長

今、２点長谷川委員から意見が出されたが、いかがか。

○山田委員

答えられる部分は私が答えていきたい。１つ目について、この設問は定番で、内閣府が行った調査でも回答の選択肢は「そう思う」、「どちらかというとそう思う」となっているので、そろえたほうが良いと思う。

２つ目について、この設問も定番で、データとして他と比較するためにもこのままの聞き方が良いと思う。内閣府の調査では、回答の選択肢にもう１つ「結婚しないほうがいい」というものがあるが、ここにも入れたほうがいいと思う。

○井上会長

今のご意見で大事な点が出たと思う。このような調査では、必ず統制群、コントロ

ール、どれと比較してといった分析が必要だ。
そうした場合、内閣府が行ったものとか、定番の聞き方などがあるので、それを採用した方が良いというご意見が出た。北区ならではというものがない場合、全体と比較して北区はどうなんだということを出していくためにも、よほどのことがなければこの形で採用させていただきたい。

○根木委員

長谷川委員のご指摘に関連して、雇用される形ではなくて、起業することなどを想定した場合の意識をどこかで聞いた方がいいのかと思う。今、働き方というのはすごく多様化していて、法整備でいうと、どうしても企業の就業規則のことが先になるが、地域という視点で考えるとやはり起業支援というのも、大事な一つの要素になってきていると思うので検討していただきたい。

○井上会長

設問の入れ方だが、何かにかけた形にするか、新たに項目を作るかということになる。アンケートの目的を考えたときにいかがなものか。

○佐藤委員

自分の娘がフリーの仕事をしていて、「結婚」について話したことがある。何か自分でやりたいことを起業してやっていく場合は、男女共同参画云々よりも「結婚」ということ自体が、自分の中の選択肢から抜けて事実婚を選ぶような感じになる。「結婚」という形式をとることにより、それだけで自分の活動が狭まるので、事実婚を選ぶ。フリーでやっている人たちは、それぞれのやり方でやっていくので、この調査の設問にいれるのはなかなか難しいと思う。

○山田委員

何を聞きたいかにもよるが、この調査の中での「仕事」は、単に雇用労働だけでなく、自営業なども含むと書いておけば良いのではないか。ただ、家事は含まないが。自営業などを含むと書いておけばいいが、書かなくても特段問題はないとも思う。

○黒田委員

自分も子育てをしながら仕事をしてきたが、特にこの設問に疑問は持たない。この設問に、そんなにこだわらなくてもいいと思う。

○井上会長

調査項目としてすべてのことを網羅できないので、いろいろな項目を切りながらやっていかなくてはいけない。今回、自由業を含むという形、「起業」の云々について、入れてしまうと逆におかしくなってしまうのではないか。

○根木委員

今回の調査の目的は、次期アゼリアプラン改定の資料にすることと、現状を調査するということである。これから区の施策に反映させていくのに、ワークライフバランスを前提とした中で、質問の仕方が雇用労働者だけを想定しているようなイメージを感じたので、これはどうなのかと思い質問した。

○井上会長

確かに、この設問だと、両立支援のところまでは調査できても、一人で独立して「起業」までの調査はできていない。

○根木委員

定番の調査があるというのはわかる。今後、調査を基にどういった施策につながっていくかと考えたとき、雇用労働者だけの問題ではないと思ったので質問した。

○岡田課長

政策として起業への支援ということになると、男女共同参画の視点から調査するのは難しい。

○佐藤委員

設問の読み方によっては、自由業の人も、自分が勤めたと思えばそのように取れるかと思う。回答する側の立場に立つと、質問項目が多く、似たような質問が多いのもかえって混乱するので、この設問だけで良いのではないか。

○根木委員

了解した。

○山田委員

調査の設問・回答の選択肢全般で、言い回しが難しいので、もっと簡単にしたほうが良いと指摘したが、まだまだ難しい。「男性と女性が共同して安心して子育てしていける社会にするためにはどのようなことが必要だと思いますか。」という回答の選択肢で「時間外労働(残業)を減らすこと」というのがあるが、わからなくはないがわかりづらい。「労働時間数はかわらなくても個人の裁量性を高めること」という回答の選択肢は、多分、半分ぐらいの方しかわからない。企業の労働担当者調査ならばこれで構わないが、一般区民向けだとちょっと難しい。フレックスでは、「勤務時間を自由に決められようにすること」にするなどその程度のほうが良いと思う。全般に見直しが必要だ。「あなたは仕事と私生活の両立についてどのように考えますか。」という回答の選択肢では、「仕事と私生活の両立が困難な場合は」という部分はつけずに、「どちらかというと」をつけたほうが良い。「どちらかというと仕事を優先する。」「どちらかというと私生活を優先する」に変えた方がいい。

リプロダクティブヘルスでは、「妊娠、出産、避妊、中絶などの性と生殖に関して、女性が自分の考えで決定していくことについてどう考えますか。」という設問については、「妊娠、出産などは女性が自分で決めるべきであるということに関して賛成か反対か」ぐらいで、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」に変えたほうが良いと思う。選択肢を含めてわかりづらい。もっと簡単にしたほうが良い。

○井上会長

私も同じことを思っていて、７０代・８０代の方がこの調査票を本当に理解できるのかと思う。また、設問の中には「賛成か、反対か」と聞いているのに回答の選択肢で、意見のようなものを選ばなくてはならないものもある。しかも、非常に複雑に書いてあるので、それを読んでいるだけでも、もうわからなくなってしまいそうである。もうすこし簡単な表現にしないと正解率というか回答率がとても減るような気がする。

○岡田課長

せっかく調査をするのだからという思いで、いろいろなことが聞きたくなり、細か

くなってしまったが、回答される区民に配慮し、簡略化するつもりだ。
○鶴田副会長
「性別役割分担」という言葉は一般的には、わかりづらい気がする。
○井上会長
わからないと思う。漢字がざっと並んでいると、７０代、６０代、１０代の方にはどうなのかと思う。気持ちはすごくよくわかるが、どうしたら良いか。
○杉山委員
「固定的役割分担」というのはどういう意味なのかわからない。その前の「性別役割分担」というのもどういうことをいっているのかがよくわからない。
○井上会長
今、委員から「わからない」という発言があったので、これでは普通はだめだということだ。
○岡田課長
調査の設問を考える前提条件としてどうしても、事務局の頭の中で判断している部分があるので、もう一度、設問・回答の選択肢について表現を見直し、整理させていただきたい。
○井上会長
テストなどをつくるときに行う、該当するような人に先に質問を読んでもらって、わかりやすいかどうかを聞く、「妥当性検定」を行っていただき、わかりにくいところを直してもらうという作業を事務局にお願いする形でよろしいか。
○岡田課長
了解した。
○井上会長
では、続いて資料３-２について、ご意見・ご質問などをお聞かせいただきたい。
○岡田課長
企業経営者向け調査の内容は、一応、王子法人会の事務局の方に確認をとっている。
○山田委員
用語として「セクハラ」は、ほとんどの方が理解できると思が「パワハラ」は、よくわからないかもしれない。
○岡田課長
その辺は、用語の説明をつけるような形でやらせていただきたい。
○山田委員
「パワハラ」の用語の解説はつけたほうが良い。この調査に回答するのは、企業経営者か。経営者だと知らないことが考えられる。
○佐藤委員
気になった点として、以前、調査したときに育児休業の利用者については「対象者がいない」という回答が結構多かったので、回答の選択肢に「対象者がいない」というのをつけ加えたほうが良いと思う。「対象者がいない」という選択肢が**1**つあると、あとの質問に答えなくていいものも出てくるので、この調査には、それが必要だと思う。

○山田委員
「利用なし」のところは、対象者がいなくて利用がなかったのか、それとも対象者がいたけれども利用しなかったのか。分けた方がいいと思う。
○岡田課長
そこは「対象者がいない」を回答の選択肢に加える形で修正したい。
○井上会長
問１３の「貴事業所では行動計画は策定されていますか。」という設問での行動計画とは何のことか。
○岡田課長
次世代育成推進対策にのっとった一般事業主行動計画のことで、従業員３００人以上の企業は策定が義務化されているものである。
○山田委員
この調査が北区に事業所のある企業の経営者を対象としているとなると、事業所は北区にあるが、本社は千代田区にある企業の場合、回答する対象者は誰になるのか。
○岡田課長
回答は北区内の事業所、支店のトップということになる。
○山田委員
そうなると、企業の経営者ではないので、回答をお願いする方をはっきり指定しないといけなくなる。
○井上会長
この調査には、調査対象になった経緯や、回答をお願いする企業の対象者などについての説明書きをつけるのか。
○岡田課長
調査票を送付する際に、説明書きをつける予定である。回答をいただく対象者として企業の経営者もしくはその施設を管理されている方という注釈をつけるつもりである。
○山田委員
事業所のトップみたいな形でよいか。
○岡田課長
その通りである。
○井上会長
「事業所」という表現のほうがよいと思う。
○山田委員
「経営者」もしくは「事業所の責任者」などとしてはいかがか。
○岡田課長
その辺は、少し細かく例を出したい。
○山田委員
これは、調査票自体の問題ではないが、またどの程度、回答してもらえるかわからないが、最近よく行われているものとして、女性を活用する企業ほど業績がよくなっているという調査があるので、もしできたら売り上げが伸びているとか、利益が伸び

ているとか、そういうものを入れていただきたい。
○岡田課長
少し検討させていただきたいが、回答が正確にいただけるか難しいところである。
○山田委員
この件に関しては、武石委員が専門分野だと思うので、武石委員のご意見をお聞きして調査項目に入れるかどうか検討したほうが良い。
○岡田課長
武石委員のほうに再度確認させていただきたい。
○井上委員
資料３-２についてはご意見・ご質問などは、もうよろしいか。
資料３-３についてご意見・ご質問などをお聞かせいただきたい。これは、町会・自治会対象の調査票ということで、８０歳代以上の方も調査の回答者としてはありえるわけか。
○岡田課長
町会・自治会の役員の中には８０歳以上の方もいると聞いている。この調査設問について、すでに町会・自治会に出向き、内容について理解できるかどうか、今日欠席されている磯委員の意見をいただいて修正の済んだものになっている。
○井上会長
「内職」という言葉はイメージ的に古い感じを受けるが最近でも行われているのか。
○杉山委員
幼稚園に通っている子どものお母さんは、なかなか外にでられないので、内職をしている方がすごく多い。
○山田委員
町会・自治会で主に活躍している方の平均年齢は調査できないのか。
○黒田委員
平均年齢は相当高いと思う。防災訓練のときに町会の役員さんを引っ張って歩くこともある。年齢は調べればわかると思う。
○岡田課長
町会長との話の中で、役員の年齢まで全部把握していないというようなご意見をいただいた。昨今、個人情報保護がかなり厳しくなっているので生年月日のような情報は収集していない場合もあるというのが実態だ。
○山田委員
「最近の町会・自治会の活動状況はどうですか」といったような設問を入れておくと良いのではないか。何か企業業績ではないが、調査の分析結果として、平均年齢が低くて女性役員の多い、町会・自治会ほど活発に活動しているといったようなものが得られると良い。最近の活動は活発です、活発になっている、以前に比べて低調だとか、一個質問を入れておいてもいいような気がする。
○佐藤委員
北区の地域の流れというものがわかるのではないかと思うので、設問で会長、副会長の在任期間というか、何年やっているのかを調査できないか。

○黒田委員

この調査は、男女共同参画についてのものなのであまりその辺はいらないのではないか。

○眞庭委員

３５年間、会長をやっている人もいる。

○福田委員

役員の年数によっても長い、短いそれぞれあると思うが、ある程度、体質というものが大まかにつかめるかなという感じがする。

○井上会長

これは地域も聞くのか。地区別は、王子・赤羽・滝野川の３つだけか。

○岡田課長

北区の場合は、一応この３つの地域で、ほぼ区分されており、ほとんどの方が理解できる区分になっている。

○荒木委員

現在、自分が住んでいる地域の民生委員は、昔から比べると女性のほうが大分多くなってきている。

○鶴田副会長

設問が会長、副会長などの役員についてばかりになっているが、一般の町内会・自治会で活動している人は、女性が多いか、男性が多いかなど、青少年部・文化部等の一般の活動主体について、質問しなくて良いのか。

○岡田課長

その件についても確認をとったが、今でも婦人部というのがあり、それも女性だけということで、各部会単位での活動について質問することはあまり意味がないとのご意見をいただいた。前回の審議会で磯委員の発言にもあったかと思うが、町会・自治会の活動には本当に女性の力はなくてはならないし、実際、状況としては、女性の参加率も非常に高い。ただ、役員に就いているかとなるとそのあたりはどうなのか、ということになる。

○鶴田副会長

実際の町会・自治会の活動に参加してみると、仕切っているのは男性だ。会長などの役員についているとかいないとかではなく、仕切る。この調査でそういった内実のような、実態が聞けると良い。活動が終わった後、座布団片付けやお茶の片付けは今も女性ばかりが行っている。私の地域だと、町会・自治会活動は商店をやっている人が中心になって、その下準備をみんな女性がやっている。活動も、随分変わってきているが、もう少し町会・自治会活動の内実というか、実態が聞けるような質問を入れてもいいと思う。あっさりし過ぎている感じがする。

○岡田課長

今回の調査では、役員・リーダーなどに、どれくらい女性が参加しているかというところに重きを置いた。一応その方向で、町会・自治会の方とすでに調整を進めており、ご理解をいただいているところである。町会・自治会活動の実態についての設問は、今回見送らせていただきたいというのが事務局のほうの思いである。

○井上会長

では、「最近の町会・自治会の活動状況は活発かどうか」という設問を１つ加えていただくことは大丈夫か。

○岡田課長

事務局としていろいろ検討していきたい。

○眞庭委員

町会・自治会向け調査に関して、私たちが案を作成したときには、「三役に任期はありますか」というのが入っていた。あと、各部会や委員会に「委員会の出席者はどのような状況ですか」という部分も入っていた。多分、それがカットされている。設問が多過ぎるということもあったのだと思うが。

○井上会長

その件については、今回は役員とかの率というところに重きがあるということで、ご了解いただきたいということである。

一応、最後の資料３-４についてご意見・ご質問などをお聞かせいただきたい。

これは区内の公立中学２年生男女１，５００名を対象ということで、とても意義のある調査だと思う。

問２の「あなたが、家でしている、あるいはすることがある仕事はなんですか。」という回答の選択肢に「その他」を入れたほうが良い。仕事はこれだけしかないということはないので入れたほうがよいと思う。

○岡田課長

その通りにさせていただきたい。

○井上会長

全体を通して何かそろえて欲しい。

○山田委員

逆に、例はこんなにたくさん要るのか。

○岡田課長

ここは逆に例は出しておいたほうがいいかと思う。

○山田委員

例は出しておいたほうがいいのだが。

○鶴田副会長

問２は家庭生活の実態を聞く質問である。問７・８・９は個人レベルの実態を聞く質問である。学校生活の実態を聞く質問が何もない。家庭生活での実態を聞く設問の他に、学校生活での実態・様子を聞く設問を入れて欲しい。学校生活での実態を聞く設問は、以前参考のため配付した学芸大学の先生が行った調査と結果を比較するためにも、１問ぐらい入れたほうが良い。

○岡田課長

設問は、基本的に自主グループの方が考えていただいた中から、チョイスさせていただいたものである。設問数には限りがあるので、どちらかというと、子どもを取り巻く周りの環境、大人だとか、学校の周りの大人たち、家庭とか、そういったところがどういった状態にあるのかと、その周りの環境に影響を強く受けているのではない

か、ということでこの構成にした。設問を学校生活の実態にまで拡大させると、そこから男女共同参画にどうやって結びつけていくか、なかなか難しくなるのでいかがなものか。

○鶴田副会長

学校での実態を聞ける簡単な内容の設問を、例として出させていただいている。今、学校の現場は、以前と随分変わってきていて男子の方がむしろ元気がない。「大学へいきたいか」という質問では女子の方が、行きたいという率が高い。設問を考える時に、近くの中学校の先生に面談して学校生活での生徒の実態を聞いた。実際に、有志で考えた調査票にも目を通してもらったが、中学２年生なら１０分程度で回答できるという答えだった。１問ぐらいは、学校生活の休み時間か授業時間かの実態を聞ける設問をつけ加えても良いのではないか。

○岡田課長

すでに中学校長会などでも調査票の設問について話し合いをしている。学校生活の実態を聞く設問に関しては、１問何らかの形で設定できるような方向で検討させていただきたい。

○根木委員

この調査票の設問内容について、実際の中学生の意見・感想などは聞いているのか。そういったことをするのは、難しいか。

○岡田課長

中学生の意見は聞いていない。

○根木委員

設問内容について、何か大人の考えている内容だと思う。例えば、リーダーを決めるのに「男か、女か」という感覚よりも「出たくない」という感覚で嫌だとかいうのが出てくるので、質問の聞き方が難しいのだろうなと思う。

○鶴田副会長

この調査票の質問については、一応、全部他で行った調査で質問したことのあるものばかりで、中学生が答えたデータがある。中学校の先生の意見も聞いている。だから「男女どちらでも構わない」とか「ふさわしい人がなったほうがいい」という回答の選択肢がある。

○根木委員

了解した。

○荒木委員

「あなたは、ストレスを感じたとき、どのように過ごしますか。」という設問について、「ストレス」という言葉を中学生は理解できるのか。「ストレス」というと何か大人のことと感じてしまう。「何か嫌なこと」とかそういうふうに変えられないか。あるいは、もう今では社会状態が「ストレス」というと通じるようになっているのか。

○山田委員

「ストレス」という言葉は中学生にも十分通じる。

○荒木委員

「ストレス」というと、何か随分、中学生で重い悩みをもっているみたいな感じが

する。
○井上会長
　子どもに聞くと勉強が「ストレス」だとかいう。やはりテレビの影響があるのかと思う。
○山田委員
　今話題になっているので「携帯電話を持っていますか」という設問を入れてはどうか。中２だと半々ぐらいか、もっとかも知れない。
○鶴田副会長
　もっと持っていると思う。
○山田委員
　公立だともっと持っていると思う。
○鶴田副会長
　この前聞いたら中学校は、７割と言っていた。
○山田委員
　「あなたは、将来どのような職業に就きたいと思っていますか。」という設問の回答欄が、自由記入になっている。例えば「特にない」という項目を取り分けたほうが良いか、そのまま書かせたほうが良いか。どうしたら良いか。
○鶴田副会長
　ここのところは、これとは違って、他のものもあった。将来のことを聞いている質問項目もあったはずだが、自由記述になっている。
○山田委員
　前に見た調査だと、女子は記入する生徒が多いが、男子は「特になし」をつける生徒が増えてしまう。
○鶴田副会長
　自由記入の欄だけだと男子が書かないと言っていた。だから、将来についての選択肢と組み合わせた形で質問票をつくったつもりだったが。
○岡田課長
　この設問については、中学校の校長先生と打ち合わせをする中で、任意記入であくまで自由記入で行うように、言われている。
○根木委員
　理由は何だろうか。
○岡田課長
　今は、中学校で行う面接などでもこういった内容について突っ込んで聞かないようにしているということである。
○黒田委員
　「あなたは、女性が働くことについてどう考えますか。」という設問は中学２年生には難しいのではないか。今、中学生は女性の方がすごく元気が良い。運動会っていってもほとんど女性の方が優勝したりする。
○黒田委員
　これは漠然と思っていたほうが良い。

○佐藤委員
　わからなかったらわからないで、説明つければ良いと思う。
○鶴田副会長
　「わからない」という回答の選択肢があるので、わからなければそこに○をつければ良いと思う。
○佐藤委員
　その通りだと思う。実際に親子で話をしている家庭もあるとは思う。
○鶴田副会長
　一応この設問は、福島市と国立市と相模原市か何かで実施していたはずである。
○黒田委員
　なるほど、それでは大丈夫かと思う。
○山田委員
　私も調査をやったことがあるが、小５でもこれくらいは回答できた。
○黒田委員
　答えられるのか。
○山田委員
　ちょっとこの文言は優しくするが、小５でやったときも答えられた。
○黒田委員
　なるほど、それでは大丈夫かと思う。
○山田委員
　文言はどれでも、中２は大丈夫だと思う。
○井上会長
　それでは、一応きょうお示しいただいた資料の方に一通りざっと目を通したことになるが、何かこれだけはいっておきたいというようなご意見・ご質問などはないか。
○佐藤委員
　この後、話があるかもしれないが、回収方法などの検討を今日はしないのか。
○井上会長
　では「意識・意向調査」の調査項目については、これで大体の審議が終了したということでよろしいか。後は事務局のほうで、もう少し精査するということで了解していただけるか。
○全員の審議委員
　了承した。
○井上会長
　今後のスケジュールについて説明していただきたい。
○岡田課長
　「意識・意向調査」の回収方法についてだが、一般区民向け調査は、郵送送付・返送回収という形で、督促兼お礼状を兼ねて１回ハガキをお出しする。回収率は、大体４０％前後を見込んでいる。１９年度に４区ほどで同様の方式でおこなっているのでそれくらいは確保できると見込んでいる。
　自治会向け調査は、すでに町会・自治会の方と相談しているが、回答者本人が密封

して地域振興室にて回収し、事務局が地域振興室に出向いて回収という形をとる。
　中学生向け調査は、今後学校側と調整を図っていくが、記入内容がわからないように配慮して、先生に回収してもらい、事務局のほうで学校に出向いて回収という形をとる。
　企業向け調査は、法人会に名簿抽出をお願いし、企業に直接送付、郵送回収という形をとる。
　今後は、本日いただいた意見を基に、さらに調査内容の精査を行い、６月６日に区長を本部長とする男女共同参画推進本部を開催し、最終的に区の承認を得た後、調査に執りかかる。調査期間は６月中旬から７月の頭を予定している。調査分析についての報告書が、委託業者より９月末を目途にできあがる予定である。
○井上会長
　以上だが、何か質問などはないか。
○佐藤委員
　一般の調査票の回収率を４０％ぐらいと見込んでいて、督促１回ということだがさらに何か対策を講じる予定はあるか。
○岡田課長
　契約上の制約はあると思うが、委託業者と話し合いを行い、回収率が上がるように努力したい。
○井上会長
「意識・意向調査」の設問項目の説明が終わり、今後のスケジュールの確認も終わった。もう一度確認するが、「男女共同参画に関する意識・意向調査」という名称についても異議はないか。
（異議なし）
○井上会長
「男女共同参画に関する意識・意向調査」の審議を終えたことになる。
事務局の方で他に何かあるか。
○岡田課長
　ご審議ありがとうございました。いただいたさまざまなご意見を活かしてよりよい調査とさせていただきたい。
次回の審議会は８月中旬を予定している。議題は、第３次アゼリアプランについて最終年度となる２１年度の重点項目の検討、アゼリアプラン１９年度実績報告を予定している。また、今回の意識・意向調査についても経過をなるべく報告していきたい。
詳細な日程については、後日連絡する。
○鶴田副会長
　アゼリアプラン実績報告については、報告書が分厚く、数字が羅列されていて、内容的に男女共同参画施策の推進の姿がはっきりしてこない。内容を改善しようと、審議会委員が自主的に各課にヒヤリングに行ったこともある。この場で、アゼリアプラン実績報告の方向性を議論し、確認してから作成したほうが良いのではないか。
○岡田課長
　これまでの審議会の経過は十分承知している。アゼリアプランの実績報告書につい

て今年度はメリハリをつけ、男女共同参画推進の姿がきちんと見える形で出していきたい。前回からの継続性というものも必要だが、今回は少し大胆に手を入れていくつもりだ。多少、試行錯誤になり、必ずしも完璧な形でお出しできないかもしれないが、今回は事務局のほうにお任せ願いたい。

○井上会長

大変頼もしい岡田課長の意見を全員で聞いていたので、今回のアゼリアプランの報告書は楽しみにしている。

これをもって第６回審議会を終了いたしたい。皆様のご協力、ありがとうございました。